

Philharmonia Orchestra
& Esa-Pekka Salonen
PRESENT

VR SOUND STAGE TOKYO

— Mahler's Third —



池袋西口公園でも体験できる！

TOKYO MUSIC EVENING YŪBE with Philharmonia

2020年1月11日(土)～31日(金)

19:00～/ 20:30～

会場：池袋西口公園野外劇場

GLOBAL RING THEATRE

サロネンが最も美しいエンディングと語るマーラー／交響曲第3番の終楽章。彼とフィルハーモニア管弦楽団が演奏する壮大な音楽が、サラウンド・スピーカーと映像を通して、冬の池袋西口公園を温かく彩ります。(約30分間)

主催：豊島区 特別協力：ブリティッシュ・カウンシル
協力：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場、ジャパン・アーツ



■お問合せ&チケット取扱

【東京芸術劇場ボックスオフィス】

〈電話〉0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00)

〈WEB〉<https://www.geigeki.jp/>

【ジャパン・アーツぴあ】

〈電話〉0570-00-1212 (10:00～18:00、年末年始を除く)

〈WEB〉<https://www.japanarts.co.jp/>

※未就学児入場不可。

※高校生以下チケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱い。(枚数限定・要証明書)

※障害をお持ちの方は、割引料金でご鑑賞いただけます。詳細は一般発売より東京芸術劇場ボックスオフィスまでお問合せください。(要事前予約)

※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等が変更になる場合がございます。

※公演中止の場合を除き、ご予約・ご購入いただきましたチケットのキャンセル・変更は承れません。

※開演時間に遅れますと、しばらくの間ご入場いただけない場合や、自席にご案内できない場合がございますのでご了承ください。

【チケットぴあ】

〈電話〉0570-02-9999 (Pコード:148-562)

〈WEB〉<https://pia.jp/t/geigeki/>

【イープラス】

〈WEB〉<https://eplus.jp/>

【ローソンチケット】

〈電話〉0570-000-407 (オペレーター対応10:00～18:00)

〈電話〉0570-084-003 (音声自動応答 Lコード:31605)

〈WEB〉<https://l-tike.com/>

【東京文化会館チケットサービス】

〈電話〉03-5685-0650 (10:00～18:00)

〈窓口〉10:00～19:00

▼東京芸術劇場託児施設

【HITOWAキャリアサポート株式会社 わらぶた】※事前申込み要

〈電話〉0120-415-306 (土・日・祝祭日を除く平日、9:00～17:00)

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

後援：ブリティッシュ・カウンシル、フィンランド大使館 協力：ジャパン・アーツ

助成：文化庁 文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

BRITISH COUNCIL

UK IN JAPAN
2019-20

JAPAN ARTS
ジャパン・アーツ

philharmonia
orchestra

東京芸術劇場 開館30周年

TokyoTokyo
FESTIVAL



東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre



ESA-PEKKA SALONEN

Principal Conductor & Artistic Advisor

指揮：エサ=ベッカ・サロネン (首席指揮者&アーティストック・アドヴァイザー)

サロネン&フィルハーモニア管弦楽団の集大成! 歴史に刻まれる必聴のプログラム!!

■2020年1月23日[木] 19:00開演 (18:00ロビー開場)

ラヴェル/組曲『クーブランの墓』

サロネン/チェロ協奏曲*日本初演 ※トゥルルス・モルク (Vc)

ストラヴィンスキー/バレエ音楽『春の祭典』

■2020年1月28日[火] 19:00開演 (18:00ロビー開場)

シベリウス/交響詩『大洋の女神』op.73

ショスタコーヴィチ/ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調 op.77 ※庄司妙矢香 (Vn)

ストラヴィンスキー/バレエ音楽『火の鳥』(1910年原典版)

■2020年1月29日[水] 19:00開演 (18:00ロビー開場)

サロネン/『ジェミニ』:「カストル」、「ポルクス」*日本初演

マーラー/交響曲第9番 二長調

東京芸術劇場 海外オーケストラシリーズ フィルハーモニア管弦楽団

東京芸術劇場 コンサートホール
Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

philharmonia
orchestra

©Masa Helmen

2020.1.23.木 19:00開演 (18:00ロビー開場)

□Thursday 23rd January 2020, 19:00
Ravel : Le tombeau de Couperin
Salonen : Cello Concerto (Japan Premiere)
Stravinsky : The Rite of Spring



ラヴェル／組曲『クーブランの墓』

サラネン／チェロ協奏曲 *日本初演 ※トゥルルス・モルク(Vc)

ストラヴィンスキー／バレエ音楽『春の祭典』

全席指定：S席24,000円 A席20,000円 B席16,000円 C席12,000円 D席8,000円 高校生以下1,000円
※D席、高校生以下完売

2020.1.28.火 19:00開演 (18:00ロビー開場)

□Tuesday 28th January 2020, 19:00
Sibelius : The Oceanides
Shostakovich : Violin Concerto No.1
Stravinsky : The Firebird (1910)

シベリウス／交響詩『大洋の女神』 op.73

ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調 op.77 ※庄司紗矢香(Vn)

ストラヴィンスキー／バレエ音楽『火の鳥』(1910年原典版)

全席指定：S席24,000円 A席20,000円 B席16,000円 C席12,000円 D席8,000円 高校生以下1,000円
※C席・D席、高校生以下完売

2020.1.29.水 19:00開演 (18:00ロビー開場)

□Wednesday 29th January 2020, 19:00
Salonen : Gemini, Castor and Pollux (Japan Premiere)
Mahler : Symphony No.9

サラネン／『ジェミニ』：「カストル」、「ポルクス」 *日本初演

マーラー／交響曲第9番 ニ長調

全席指定：S席23,000円 A席19,000円 B席15,000円 C席11,000円 D席7,000円 高校生以下1,000円
※C席・D席、高校生以下完売

※演奏を予定しておりました「ポルクス」は、新作「カストル」(2019年10月ロサンゼルス・フィル初演)を追加した連作「ジェミニ」として演奏します。



©Benjamin Szwed

エサ＝ペッカ・サラネン (首席指揮者&アーティストック・アドヴァイザー)

エサ＝ペッカ・サラネンは、絶え間ない革新によって、クラシック音楽界において最も重要な芸術家のひとりとみなされている。指揮者・作曲家であるサラネンは、1958年ヘルシンキに生まれた。当地のシベリウス音楽院に学び、79年フィンランド放送交響楽団を指揮してデビュー。85年から95年まではスウェーデン放送交響楽団の首席指揮者、95年と96年はヘルシンキ音楽祭の音楽監督を務めた。また、毎年開催されるバルト海フェスティバルの共同創設者であり芸術監督も務めている。現在、ロンドンのフィルハーモニア管弦楽団の首席指揮者およびアーティストック・アドヴァイザーを務めるとともに、1992年から2009年まで音楽監督を担ったロサンゼルス・フィルハーモニックの桂冠指揮者でもある。サラネンとフィルハーモニア管は、サウスバンク・センターのデジタル技術を使って、いかに音楽を提供できるかという先駆的な試みを引き続き行っている。その主なものとしては、イギリスの交響楽団としては初めてとなる大がかりなヴァーチャル・リアリティのプロダクションのほか、賞を受賞した「RE-RITE」や「ユニバース・オブ・サウンド：惑星」といったインスタレーションがある。映像と音を駆使したこれらのインスタレーションでは、世界中の人々が、オーケストラの中に入って指揮や演奏を体験することができる。サラネンはほかにiPadのための待望のアプリケーション「オーケストラ」を開発した。作曲家としても活躍しており、ヴァイオリン協奏曲やチェロ協奏曲、そのほか多くのオーケストラ曲を作曲。複雑さと高度な演奏技術が遊び心あるリズムと新鮮なメロディーに結びついている。CDもリリースされている。2021年シーズンよりサンフランシスコ交響楽団の首席指揮者に就任する。

ESA-PEKKA SALONEN

Principal Conductor & Artistic Advisor Philharmonia Orchestra



©Benjamin Szwed

フィルハーモニア管弦楽団 (管弦楽)

世界的な名門オーケストラのひとつであり、膨大なレコーディング数を誇るフィルハーモニア管弦楽団は、ロンドンのサウスバンク・センター内にあるロイヤル・フェスティバル・ホールに拠点を置き、演奏の質の高さに加え、聴衆の開拓、レジデンス・オーケストラとしての活動、音楽教育などにおいて、リーダー的役割を担っている。2008年エサ＝ペッカ・サラネンを首席指揮者&アーティストック・アドヴァイザーに迎えてから、イギリスの音楽界における中心的存在としてゆるぎない地位を築いた。またサラネンと同楽団は、デジタルテクノロジーを駆使してバーチャルリアリティのクラシック音楽の道を切り開いてきた。近年の活動は、イギリス国内での演奏のほか、2019年1月カルタヘナ国際音楽祭(コロンビア)出演、3月リンカーンセンター(ニューヨーク)とパークレー(カリフォルニア)を含む米国ツアーを実施。7月エクサン・プロバンス音楽祭では、コンサートのほか、ワイルドマホガニー市の興亡を上演、絶賛された。1945年の創立以来、フルトヴェングラー、R.シュトラウス、トスカニーニ、カラヤン、ジュリーニといった巨匠の薫陶を受け、その後は、マゼール、ムーティ、シノーポリ、マッケラスなど、そうそうたる顔ぶれが同楽団の主要ポストに就いてきた。2021年シーズンからはサラネンの後任として、サントゥ＝マティアス・ロウヴァリが首席指揮者に就任する。

PHILHARMONIA ORCHESTRA

Orchestra

エサ＝ペッカ・サラネン、 フィルハーモニア管との 日本ツアー2020を語る!

音楽家大国フィンランドの、というよりは世界を代表する指揮者の1人、エサ＝ペッカ・サラネン(1958年生まれ)が2020年1月下旬、ロンドンの名門フィルハーモニア管弦楽団と、2008年から務めてきた首席指揮者として最後の日本ツアーに臨む。意欲的なプログラミングの背景などについてサラネンに国際電話で直接、話を聞いた。

最初にフィルハーモニア管弦楽団首席指揮者としての12シーズンを総括してもらった。「核の部分を補強し、さらに拡張する作業を新しい時代の音楽家と進めました。私がフィルハーモニアを初めて指揮した1983年から在籍している楽員はもう3、4人しかいないでしょう。世代交代と同時進行で、伝統やサウンドアイデンティティーに磨きをかける仕事は大きな喜びです。面白いことに偉大な前任者たち－ヘルベルト・フォン・カラヤンやオットー・クレンペラーが築いたサウンドの基盤は記憶のDNAとでもいうのでしょうか、後の世代にもしっかりと、受け継がれています。私たちは『伝統』がどう伝わり、どの部分を引き継いだのか、具体的に検証できないにもかかわらず、先人たちが口頭で何度も詳しく伝えたアイデアは、確実に受け継がれているのです。音楽家のコミュニケーションとは言葉の背後にあるというか、言葉を超越した現象です」と、偉大な伝統の担い手の立場を鮮明にした。さらに「世代が下るに連れて演奏テクニックは確実に向上し、HIP(歴史的情報に基づく演奏)への認識も確かです。若いプレーヤーたちは特にピリオド楽器を使用しなくてもバロックから古典、同時代の新作までを柔

取材・翻訳 © 池田卓夫 = 音楽ジャーナリスト



©John Bae

トゥルルス・モルク (チェロ)

トゥルルス・モルクは、ノルウェーの音楽一家に生まれた。力強さと優雅さを兼ね備え、現代を代表するチェリストのひとりとして、その地位を確立している。モルクは、パリ管、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、フィルハーモニア管、ゲヴァントハウス管、ニューヨーク・フィル、フィラデルフィア管などの名門オーケストラと共演。また、M.ヤンソンス、D.ジマン、M.ホーネック、S.ラトル、K.ナガノ、G.ドゥダメル、C.エッセンバウハ等の著名指揮者と共演。エサ＝ペッカ・サラネンが2016年に作曲したチェロ協奏曲を、サラネン指揮のもと、2018年バルト海フェスティバルや、ロンドンのフィルハーモニア管と演奏したほか、K.マケラ指揮フランス国立放送フィル及びオスロ・フィルで同曲を演奏。現代音楽にも積極的に関わり、30もの作品を初演してきた。日本においては、2001年C.デュトフ指揮NHK交響楽団と、ベンデレツキ「3つのチェロとオーケストラのためのコンチェルト・グロッシ」初演のソリストをつとめた。今シーズンは、J.P.サラステ指揮ベルゲン・フィル、V.ペトレンコ指揮ロイヤル・リバプール・フィルと共演、また、ピアノのB.アブドゥライモフとのアメリカ及びヨーロッパでの公演は大成功をおさめた。2020年はパリ、ロンドンでベートーヴェン、フランク、プロコフィエフを演奏する。CDの録音にも積極的に取り組み、最近では、V.ペトレンコ/オスロ・フィルによる、ショスタコーヴィチ協奏曲第1番&第2番をリリース。フランス・ヘルメルソン、ハインリッヒ・シフ、ナターリヤ・シャホフスカヤに師事。

TRULS MØRK

Violoncello



©Keihin Shinoyama

庄司紗矢香 (ヴァイオリン)

庄司紗矢香はその才能、卓越した技術で国際的に評価されている。プロコフィエフ、チャイコフスキー、ブラームス、シベリウス、ショスタコーヴィチらの名作に加え、新作も演奏し、幅広いパートリイを持っている。庄司は、テミルカーノフ、メータ、ノセダ、ヤンソンス、アシュケナージ、P.ヤルヴィなどのトップレベルの指揮者、また、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、マリンスキー劇場管弦楽団、NHK交響楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団といった世界を代表するオーケストラと共演を重ねている。2019/20年シーズンの主な公演には、アシュケナージ指揮フィルハーモニア管弦楽団とのイギリスツアー、サラネン指揮同管弦楽団との日本ツアー、クリーブランド管弦楽団デビューの他、テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団のシーズンズ・クロウジックコンサートが挙げられる。リサイタルでは、カシオーリと共演、ベートーヴェンのピアノとヴァイオリンのソナタ全集を録音した。今シーズンはアンゲリッシュとモディリアーニ弦楽四重奏団とコンサートを行い、オラフソンとのウィグモア・ホールを含むツアーも予定されている。ジャンルを超えた芸術プロジェクトにも参加しており、今シーズンは日本で勅使川原三郎と音楽とダンスのコラボレーションを行う。庄司は、シエナとケルンで学び、1999年にバガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールで最年少および日本人として初めて優勝した。2010年芸術選奨新人賞、2016年毎日芸術賞を受賞。使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与された1729年製ストラディヴァリウス「レカミエ(Recamien)」である。

[Twitter] SayakaShoji

[Facebook] SayakaShojiOfficial

SAYAKA SHOJI

Violin